

9月3日火曜日、十和田市立法奥小学校3年生7名が、十和田市奥瀬幌内山国有林80林班ろ小班内ブナの巨木「森の神」周辺で、「ブナの森たんけん学習」を行いました。

この学習は、法奥小学校が取り組んでいる「みどり学習」の一環として、実際にブナの森に行き、森の多面的な役割やそこで生きる生物の大切さなどを学ぶ活動で、三八上北森林管理署と連携して毎年実施しています。

初めに、歩道沿いにある植物について紹介しました。子どもたちは、葉の形を観察したり、においをかいでみたり、樹皮を触ったりして、森林には様々な植物がいることを学習しました。カツラの葉の甘い香りに「梨みたいなおい」と感激したり、空っぽの蜂の巣をみて「初めて見た」と驚いたり、さるなしの実を割って「キウイフルーツみたい」と中身を確認したりするなど、なかなか体験できない森林散策を満喫したようでした。

日本一のブナの巨木、「森の神」の前に到着すると、子どもたちからは「大きい～」と歓声が上がりました。巨木を見上げて、「本当に神様が住んでいそう」というような感想も話していました。保護のため、「森の神」には直接接触らず、幹回りと同じ6mのロープを皆で広げて太さを確かめました。森林の役割と大切さについて説明をした後は、実際にもりの土と植物の生えていない土で水を蓄える力にどのくらい違いがあるか実験も行いました。自由散策の際には、ブナやトチの実、看板についたクマの痕跡などを見つけて、熱心に観察していました。



木彫りの熊がお出迎え



カツラの葉は甘いにおい



さるなし



キウイフルーツみたい

最初は緊張した様子だった子どもたちも、帰りは積極的に植物を観察したり、ほかの植物と比べてみたりと、森林に対する興味関心が深まったように見えました。「初めてブナを見た」「葉にいいにおいがあった」「トチの葉の色がきれい」というような子どもたちが見つけたお気に入りも発表してもらいました。この学習をきっかけに、子どもたちの森林に対する理解が少しでも深まれば嬉しく思います。



森林の仕組みについての実験



木の太さはこのくらい



オオカメノキの実も
なっていました



森林を自由に散策



今日のお気に入り！

森林にたくさんふれあえたね！

